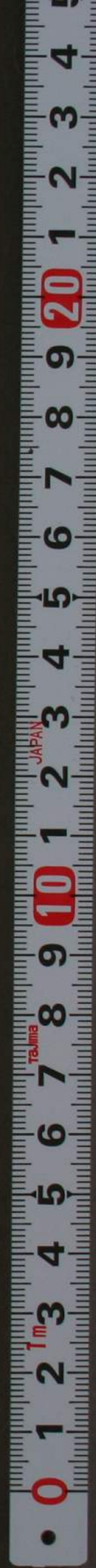


博覽會主事局

愛知縣下

博覽會規則書

洋学文庫
文庫8
C 380



博覽會票告



入ノ書ヲ讀ムハ人ノ説話ヲ聽クニ如カス
 説話ヲ聽クハ親カラ其物ヲ觀ルニ如カス是ニ
 於テ乎近來博覽ノ會大ニ開ケ凡ソ都府ヨリ邑
 里ニ至ルマテ歲トメ此會有ラサレハナシ蓋シ
 異邦ノ殊品太古ノ遺寶ヲ集メテ人ノ目前ニ陳
 子其嘗テ讀ム所嘗テ聽ク所ヲ實ニシ以テ入
 智識ヲ擴充スル者ハ亦聖政ノ一端ナレハナリ
 曩者縣下屢小會ヲ開ク未タ遺憾ナキ能ハス茲
 本年五月一日ヨリ三十日ノ間名古屋東本願

寺掛所ニ於テ更ニ博覽大會ヲ開キ各國發明
 器械ヨリ山海所産ノ物品及ニ古器舊物ノ時勢
 ノ沿革ヲ徴スヘキ者新製奇巧ノ世俗ノ頑陋ヲ
 破ルヘキ者ヲ網羅シテ一境ニ陳列シ彼我ノ巧
 拙ヲ較ラヘ古今ノ精粗ヲ鬪ハシメントス以テ
 巧ナル者ハ愈巧ニ精シキ者ハ益精シカラシメ
 ハ則器用足テ富强至リ而シテ聖政萬分ノ一ヲ
 補フヲ得ン是レ吾輩ノ微志ナリ希クハ四方ノ
 君子此場ニ臨ミ此舉ヲ輔ケ以テ一場ノ玩具ト
 看做スノカチナラズ

名古屋博覽會規則

第一條 本會ハ明治七年即チ西曆一千八百七十四年五月一
 日ヨリ三十日ノ間愛知縣下名古屋東本願寺掛
 所ニ於テ博覽會ヲ開クヘキヲ願ヒ茲ニ其ノ
 官許ヲ得タリ
 第二條 本會ノ廣狹ニ應シ陳列品ノ部分ヲ定ム此
 分類ノ目錄ハ開場ヨリ三十日前ニ印刷シテ報
 告スヘシ

第三條

會場ハ毎日八時ニ開キ四時ニ闔ツヘシ

第四條

會場ニ入ル者ハ必ス通券ヲ持ツヘシ券ノ價ヲ新貨三錢トス券ヲ斷テ門ヲ入レ券ヲ見テ門ヲ出ス若シ券ヲ遺失スル者ハ更ニ一枚ヲ買テ償フヘシ必ス一人一枚ヲ限リトス

第五條

凡ソ物品ヲ會社ヘ出ス一開場前三十日ヨリ始メテ一週日前ニ終ルヘシ但海外遠國等ヨリ出ス所ノ物品ハ一週日內ニ及フモ苦シカラス其

他止ムヲ得サルノ事故アル者ハ開場中タリモ出シテ妨ケナシ

第六條

大ナル器械ヲ出シト欲スル者ハ開場ヨリ三十日前ニ於テ豫メ書面ヲ以テ議シ云々ノ場所ニ陳列シ濶サ何間何尺ノ隙地ヲ要スル等ノ事ヲ定メ置クヘシ

第七條

凡ソ物品ヲ陳列セントスル者ハ賣物ト所藏物トヲ分明ニ別ツヲ要ス依テ所藏物ハ朱ヲ以テ記シ賣物ハ墨ヲ以テ記シ價直ヲ記シ置クヘシ

第八條

賣物ハ其記シタル價ヲ替ヘスシテ賣ルヘシ依
テ其代價ヲ記スニハ尤モ的當ナル價ヲ定ムヘ
シ若シ所藏物ヲ買ハント欲スル者ハ當會社主
事局ヘ合議スヘシ

第九條

賣物ヲ出スト雖モ尋常坊間ニ夥シクアル所ノ
物ヲ出スヘカラス煩シキノ害アリテ觀ルニ益
ナキヲ以テナリ故ニ或ハ粗大ニシテ實用ニ益
ナク却テ障礙アルモノ或ハ穢シキ物人ノ心ニ
忌嫌ハシク思フ物等ハ主事局ニテ之ヲ擯斥ス

ルノ權アルヘシ

第十條

火藥等ノ如ク危險ナル者ハ出スヲ禁ス

第十一條

大切ノ物品ハ勿論些少ノ品タリモ火ノ付キ易
キ物等ハ別シテ硝子ノ蓋ヲ以テ其器ヲ緊封ス
ヘシ

第十二條

物品陳列ノ後ハ陳列目錄ヲ作テ發兌スヘシ

第十三條

物品ヲ出ス者ハ愛知縣下博覽會主事局ノ充ニ

テ第五條ニ照シ送ルヘシ又返ス時モ本局ヨリ返スヘシ故ニ受取人モ此局ニ來ルヘシ但終會後三十日ヲ限リ計ス

第十四條

物品ヲ寄レ來ラハ本局ヨリ預リ券ヲ渡シ置キ終會ノ後其券ト引換物品ヲ返スヘシ然レモ持主物品入用ノ事アル片ハ會中タリモ券ト引換ヘ返スヲ妨ケナシ

第十五條

會場中若シ出品ヲ傷損スルコトアル片ハ主事局ヨリ之ヲ償フノ途ヲ立ツヘシ然レモ事非常ニ

屬スル片ハ持主ノ損失タルヘシ

第十六條

物品ヲ送り又返ス時ノ運賃ハ其人ノ自費タルヘシ遠國ノ賣品取返スト難キモノハ主事局ニ合議スヘシ周旋シテ買取ルコトアルヘシ但會場ヨリ乞求スル品物ノ運費ハ會場ヨリ消却スル勿論タリ

第十七條

賣品ハ其價ノ百分ノ三ヲ主事局ニ納ムヘシ

第十八條

此會ニ附屬シテ種々ノ觀物并ニ筵席等ヲ開キ

四方ノ看客ヲ慰ムコトアルハシ

第十九條

動物ハ鳥獸ヲ會シ植物ハ花卉盆栽ヲ專トシ傍
ラ雜草ニ及ブハシ

第二十條

書畫會ヲ張リ古今ノ書畫ヲ展示成小之ヲ賣リ
及ヒ茶筵ヲ設ケ煎茶抹茶ヲ飲シ其他一時期日
ヲ剋シテ演戲角觥ノ類ヲ開場スルコトアルハシ

愛知縣下名古屋傳馬町七丁目

明治七年二月

博覽會主事局